

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	伊万里市立牧島小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、年度当初予定していた行事や授業形態に制限が生じたが、保護者や地域の理解や協力を得ながら可能な範囲で取り組むことができた。 家庭学習の充実、オンライン視聴時間やルール決めなど、学校と家庭が連携をして改善していきたい。 次年度は、複式学級が2学級となる。教育課程編成、学力向上、教職員の働き方改革等多方面に影響が生じるとされる。これまでの成果を生かしながら、課題解決に取り組んでいく。
2 学校教育目標	よく学び、心豊かで、たくましく生きる「牧島っ子」の育成
3 本年度の重点目標	<p>【知】「確かな学力」の向上を果たす教育活動の推進</p> <p>【徳】「豊かな心」を育む教育活動の推進</p> <p>【体】健康安全な生活を送り、体力の向上を果たす教育活動の推進</p> <p>【特色ある学校】「啓成中校区コミュニティスクール」の実施</p>

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・令和3年度学力向上評価シートを配布し、教職員間でマイプランを共有すると共に、校内研修等により取り組みの促進を図る。							
	○協力的な学びの実現に向けた教育活動	○児童に実施する意識調査で、6月の結果を踏まえ、12月の結果を上回るようにする。 ○「学び合い」を通して、協力的な学びができた意識調査で回答した児童75%以上	・マイプランでPDCAサイクルを運用し、意識調査後に改善・修正を行い、協力的な学びのある授業を行う。 ・児童向けの意識調査を年2回行う。							(学び部)
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「人権意識の向上に努めている」と回答した教師80%以上 ○「道徳の勉強のときは人の気持ちや自分のことを考えている」と回答した児童80%以上	・「ほかにほかにタイム」で人権の話をし、「ほかにほかに」を発行して保護者にも啓発する。 ・年に1回「ふれあい道徳参観」を実施する。							(心づくり部)
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめのないよい学校と回答した児童が80%以上 ○子どものことなど、学校に相談しやすい雰囲気を感じられると回答した保護者が80%以上	・気になる児童や保護者と深く関わりながら、信頼関係の構築に努め、SCやSSC等、関係機関との連携等、積極的な支援を行う。 ・定期的なアンケート(児童・保護者)や教育相談の充実を図り、「いじめ」などの実態を把握し早急に取り組む。							(心づくり部)
	◎児童が夢や希望を持ち、その実現に向けて粘り強く取り組もうとするための教育活動	○生活科や総合的な学習の時間の授業の中で、探究的な見方・考え方を働かせ、自分たちの生活が地域の人に支えられていると感じた児童、自己の生き方について考えることができた児童が80%以上	・生活科や総合的な学習の時間の授業づくりを中心とする校内研究を行う。 ・体験活動を通して、地域の方のかかわりを深め、地域の人に支えられていると感じたり、自己の生き方を考えたりすることができたかどうか意識調査を行う。							(心づくり、研究主任)
●健康・体づくり	②「望ましい生活習慣の形成」	②規則正しい生活(適度な睡眠時間、適度な運動)を意識した生活をしていると自覚している児童90%以上	・定期的なアンケートを実施し、職員間で情報交換及び全体での指導を行う。							(体づくり)
	③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	③「早寝早起き朝ご飯」を徹底させ、特に「朝ご飯を食べる」については95%達成を目指す。 ○好き嫌いをなくすだけでなく、手洗いや姿勢などを徹底し、給食時間の充実を図る。	・「早寝早起き朝ご飯の大切さ」についての保健指導を発達段階に応じて行う。 ・6月と1月にもりもりコンテストを実施し、食への関心を高める。 ・栄養教諭、学校栄養士と連携して食に関する指導を年2回行う。							野田(体づくり)
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。	・定時退勤推進日の設定 ・会議の縮減、会議時間の短縮 ・退勤時刻の明確化と呼びかけ							教頭
	○教育活動の整理・合理化	○行事の数、内容の精選を行い、行事実施に関する時間の20%削減。	・行事の前に削減できる部分はないかを検討し、行事の後にその振り返りを行う。更に今年度の計画書に結果や改善点を明記しておくことで次回へ繋げる。							教頭

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の充実	○教員の指導力と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員70%以上	・特別支援に関する研修会の実施 ・個別の支援計画の作成、ケース会議の開催、情報共有							
○ICTの活用	○ICTの日常的な活用と授業改善	○教師のICTの活用と共に、児童のICT活用率を高め、効果的な学習を行う。	・デジタル教科書を活用したり、Q-Rコードを利用したりすることで、学習内容を具体的に理解できる手立てにし、効果的な学習を行う。 ・調べ活動、協力的な学び、プログラミング、まとめ学習で、朝の時間や授業の中で活用する。							(教育情報化推進リーダー)
○地域と連携した教育活動	○地域の中の学校づくり	○体験活動に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童80%以上	・校内研究を通して年間指導計画の作成や地域素材の教材化などを行う。 ・地域連携会議を年間2回開催し、体験活動のねらい等を地域の方々と共に共有する。							教頭

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
----------------	---